

30年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 9月1日～ 30年9月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	△ 10.0	△ 30.0	△ 10.0
	ヒノキ	0.0	0.0	△ 33.3
	カラマツ	37.5	0.0	12.5
	エゾ・トド	△ 25.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	12.5	△ 25.0	0.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	37.5	0.0	12.5
	エゾ・トド	△ 25.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 12.5	△ 37.5	△ 12.5
	ヒノキ	25.0	0.0	0.0
	カラマツ	16.7	0.0	0.0
	エゾ・トド	16.7	16.7	16.7

・スギの伐採動向は3カ月連続減少。ヒノキは9月、10月の横ばいから11月は減少に。カラマツは9月の増加から10月は横ばい、11月は再び増加に。エゾ・トドは9月の減少から10月、11月は横ばいに。

・スギの出荷・販売動向は9月の増加から10月は減少、11月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは9月の増加から10月は横ばい、11月は再び増加に。エゾ・トドは9月の減少から10月、11月は横ばいに。

・スギの手持立木在庫動向は3カ月連続減少。ヒノキ、カラマツともは9月の増加から10月、11月は横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続増加。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のカラマツ間伐の請負事業を実施中。台風の季節を迎えたが、どうにか大雨にならず順調に伐採している。台風などで長雨にならなければ伐採動向は横ばいの見通し（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）。
- ・伐採はスギ、カラマツともに漸増傾向（東北）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実行中（中国）。
- ・スギ間伐の伐採、11月から2カ所に分かれて実施（九州）。

(出材・販売動向)

- ・一般流通材の流通も少ないため、各製材工場の原木在庫も少ないと聞いている。このため、素材のシステム販売用も素材公売用の原木も順調に出材・販売している（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を継続中（北海道）
- ・丸太不足のためか、売足が早い（東北）。
- ・国有林のカラマツ皆伐を出材中（東北）。
- ・韓国へヒノキ丸太を輸出（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ちのトドマツ立木在庫が少なくなっているため、適宜国有林の立木公売で購入する予定（北海道）。
- ・請負事業のみ実施中のため在庫変動はない（北海道）
- ・手持ち立木は減少。今後購入する予定（東北）。
- ・ヒノキ立木を購入（東北）。